

“知らない”ということに気づくことこそ “学びのスタート”である



ペリオバカ養成講座

学びの門戸を開くための 100 の質問

山本浩正 著

AB判/144頁 定価：本体 4,800円＋税
医歯薬出版（2014年8月）

フリーランス
評・石原美樹（歯科衛生士）



“Dr. Hiro”の愛称で歯科衛生士にお馴染みの山本浩正先生。もう10年も前になりますが、はじめて著書を手にしたときは何度も何度も読み直しながら勉強しました。現在もときおり活用し、また、新人に勧める教材としても使っています。

歯科衛生士は学校を卒業したあとも勉強することがたくさんあります。しかし“勉強”と聞くだけで気持ちが重くなる方は多いのではないのでしょうか。山本先生も勉強という言葉に抵抗をもたれているのか、本書のなかではあえて「学び」という言葉が使われています。そして、多くの歯科衛生士に「学び」の楽しさを味わって、知的ロマンを仕事の糧にしてもらいたいと綴っています。その言葉のとおり、山本先生の著書はエビデンスベーストであるにもかかわらず、たとえ話がふんだんに盛り込まれ、どれもわかりやすく、楽しく読めることが特徴です。と

きおり出てくる先生の本音と、イラストがとてもコミカルで、私も読みながら楽しんでいます。

本書もこれらの特徴が満載ですが、なかでも最大の魅力はクイズ方式になっている点です。“勉強する”というよりは、自分の知識と照らし合わせながら順々に読み進めてもいいですし、確認のためにわからないところだけ読むのもよいと思います。スタッフ同士で質問し合いながら勉強するのも使いやすく、いろいろな活用法があります。本書の100の質問は「歯周組織検査編」から「メンテナンス編」までの12編に分かれており、基本的なものから、ちょっとひっかけた質問、先生の独特の言い回しに「えっ！」と驚かされる文面など、さまざまな質問が用意されています。

質問には○か×かで答え、できればどうして○なのか、どうして×なのか、その理由を添えて答えるようにしてみてください。「何となくわかるけど、説明できない」という理解がまだ曖昧な状態では、臨床の場で活用されにくく、患者さんに説明する際にも言葉が出てこないものです。そのようなときは、その質問の解説を読んでみましょう。1ページで簡潔にまとめられている要点と、印象深いイラストが助けとなって理解が深まり、一つひとつ解決できるようになっています。本書には鉄拳顔負けのぱらぱら漫画もあるのですが、どこに載っているかは読み終えてのお楽しみとしておきます（笑）。本当にユーモアたっぷりの一冊です。

臨床は、知識と経験が増えると、そのぶん楽しさとやりがいが増してきます。本書は臨床に必要な知識が100の質問として紹介されていますが、繰り返しチャレンジすることで学びが深まる良書です。そして学びが深まれば、いまよりさらに患者さんに信頼される歯科衛生士になれると信じています。